

第3回 骨髄バンクとの意見交換会

開催日時：2024年1月26日（金）17：30～18：30

参加者：【日本骨髄バンク】3名、【HCTC分科会メンバー】25名、【ゲスト】9名

計37名

議事

I コーディネート期間短縮に関する意見交換

特にPB採取における採取の21日前以内の術前健診実施について検討する。

●JMDPから実績紹介と本日の議題の経緯について

<コーディネート期間の中央値の推移（2001年～2023年度上半期）>では、2023年度の上期では患者登録から採取までが118日と初めて120日を切った。

コーディネート行程の前半においては、昨年はドナーの問診票をWeb問診に変えることで前年度より3日程度短縮できている。

<2022年度実績>

術前健診の実施から採取までは約30日であった。

- ・術前健診実施から採取計画書判定日まで：中央値4日
- ・術前計画書判定日から採取まで：中央値26日

術前健診で再検査となる割合：18.1%

術前健診でドナー終了となる割合(再検査含む)：9.7%

今回は後半部分の期間短縮ということで、特にPB採取における採取の21日前以内の術前健診実施についてご意見を伺いたい。

現在のルールでは、骨髄・PBいずれも採取・移植の21日前までにドナーの採取前健康診断を実施することとなっている。PBの場合は骨髄と違い自己血の準備がないので、現状の21日前ルールを取り除くことにより、コーディネート期間短縮につながるのではないか？移植施設はドナー選定時、より早い日程で移植日を希望できるのではないかとということが議論されている。

<2019年骨髄バンクアンケート調査（N-717）>から

採取前健診からPB採取日までの期間を2週間前までに変更できないか？

Q；PB採取は最短で何日先の採取日程の受け入れが可能ですか？

A；51%が20日もしくは20日未満の受け入れが可能と回答。

Q；採取健診日からPB採取までの期間を現行の3週間前から2週間前までとした場合に支障がありますか？

A；採取施設では9%で、移植施設では22%で支障があると回答。採取施設、移植施設ともに「わからない」と回答した施設が35%を超えた。

第3回 骨髄バンクとの意見交換会

●各施設の状況・参加者からの意見

●コーディネート全般での意見

- ONGS 検査と確認検査省略対象ドナーについて
- 患者登録からコーディネート開始までの手続きについて
- ドナー確認検査について

●福田医師より情報共有

<採取前健康診断以降のドナー理由中止（2011-2015）>（金森先生・平川先生データから）

- ・第一ドナー採取前健診=移植予定患者数 7398 人（100%）において、ドナー理由で終了が 555 人（7.5%）、第二ドナー採取前健診まで進んだのは 379 人（5.1%）、第二ドナーから移植できたのは 332 人（4.5%）。第一ドナー採取前健康診断においてドナー理由で中止になった後は、その 6 割しか非血縁骨髄移植ができていなかった。

・ドナー中止となった主な検査項目

検査値異常：心電図、肺機能、尿検査、凝固、生化学、血算、感染症

新規の診断、症状がみられるもの：循環器、整形、皮膚科、神経、VVR のエピソード

*その他

セミナーのご案内。

日本造血・免疫細胞療法学会総会期間中の 3 月 22 日（金）18 時から

“HCTC Labo 2024 号室”と題し、3 つのセッションで構成。

1. コーディネート体制リサーチ
 - ・認定取得したての HCTC による自施設での活動・体制整備・認定取得まで
 - ・2 人体制の HCTC 間の連携・先輩/後輩 HCTC 関係での人材育成
 2. クローズアップコーディネート
 - ベテラン HCTC による講演（・血縁ドナーへの対応 ・医師との連携）
 3. 骨髄バンクコーディネートのさらなる迅速化を探る
 - HCTC、その他の移植関係者、医療関係者による意見交換
- 詳細については別途ご案内する。

以上